

第1回「子育て支援セミナー」資料

1 第1回「子育て支援セミナー」指導案

第1回「子育て支援セミナー」指導案

H17.5.15

高崎市立新町第二小学校
高橋 美保

テーマ：「友達に対する信頼感やきずなをはぐくむ」

導入

1. 全員で握手しながら自己紹介（名前）をする。
2. 二人組になり、一人が肩もみをしながら子どもの自慢話をする。～交代～

展開

1. 場面説明をする。

狩野君と高橋君は、仲良しです。今日も放課後、二人で遊んでいました。しかし、些細なことからけんかになり、狩野君は高橋君にぶたれて口の横が切れ、血が出ていました。

2. 役割演技

役割：児童狩野君・・・狩野先生 児童高橋君・・・高橋 狩野君の母親・・・S先生

[役割演技]

高橋君：「狩野君、今日はもう5時になったから、そろそろうちに帰ろうよ。」

狩野君：「うん。そうだね。」

高橋君：狩野君の帽子をふざけて取る。

狩野君：「返してくれよ。」

高橋君：「いやだよ。返してほしかったら取ってみな。」

狩野君：怒って「かえせよ。」と高橋君の胸ぐらをつかむ。

高橋君：その手を振り払い、「何するんだよ。」と喋って狩野君の頬をぶつ。そして、けんかをしたまま別々に帰った。

狩野君の母親：子どもの顔を見るなり、「どうしたの?」と聞く。

狩野君：「高橋君に帽子を取られて、取り返そうとしたら、けんかになって、ぶたれたんだよ。」

狩野君の母親「まあ、何てことするのかしら。高橋君は本当に乱暴なんだから。いい、もう、高橋君とは遊んじゃだめよ。お母さんがこれから高橋君の家に電話をしておきますからね。」

3. 話し合い活動 総合司会：高橋

「お母さんの対応についてどう思いますか。グループごとに話し合ってください。」

* 話し合いで出た意見をグループの代表者に発表してもらおう。(全グループでなくてよい。)

「その時のお母さんの気持ちは、どうだったのでしょうか。グループごとに話し合ってください。」

* 話し合いで出た意見をグループの代表者に発表してもらおう。(全グループでなくてよい。)

「お母さんの様子を見て、子ども(狩野君)はどう思っているのでしょうか。話し合ってください。」

* 話し合いで出た意見を、グループの代表者に発表してもらおう。(全グループでなくてよい。)

～うまく意見が出なかったとき～

狩野君に“今の気持ち”を司会者高橋が聞く。(役割演技)

司会：「狩野君、お母さんの様子を見てどう思いましたか。」

狩野君：「高橋君と遊べなくなっちゃうのは困るし、お母さんも電話なんかしないでほしい。また明日も高橋君と一緒に遊びたい。」

「子どもが友達とうまく付き合うために、母親はどのような声かけをしたらいいでしょうか。話し合ってください。」

* 話し合いで出た意見をグループの代表者に発表してもらおう。(全グループでなくてよい。)

4. まとめ

子どもの視点に立ってみると、何と声をかけたらよいか、親の取るべき態度が見えてきます。親は、自分の感情より、まず、子どもの気持ちを押し量り、子ども同士の間関係がうまくいくようなアドバイスができるとうよいと思います。

2 「子育て支援セミナー」便り

保護者様

4年生学年便り～号外～

H17.5.19

「子育て支援セミナー」を開催しました

平成17年5月15日(日)に、「子育て支援セミナー」を開催しました。事前に行った保護者の皆さんからお寄せいただいたアンケート結果をもとに、セミナーのテーマ「友達に対する信頼感やきずなをはぐくむ」を決めて実施しました。セミナーでは、最初に、参加者全員で握手をしました。次に、二人一組になり、肩もみをしながら子どもの自慢話をしました。そして、教員が演じた劇を見て、課題場面について話し合い、発表してもらいました。そこで、いろいろな意見が出され、保護者同士の情報交換ができました。以下、セミナーに参加して下さった保護者の皆さんの感想を紹介します。

<p>自分で考えていた意見とは違う意見を聞いて、大変参考になりました。子どもの視点で考えるということ、今後も気をつけていきたいと思います。</p>		<p>日常、よくありがちなトラブルなので、いろいろな意見を聞くことができ、参考になりました。</p>	
<p>いろいろな意見が聞いて、大変勉強になりました。日頃の子どものコミュニケーションが一番大切だと感じました。親たちも、日々、学ばなければならないことがたくさんあると思います。子どもと共に頑張りたいと思います。子どもと同じ視点がもちたいです。</p>		<p>皆さんの意見を聞いたり、その状況を想像したりしながら、自分だったらと改めて考えたとき、自分自身を反省したり、考えさせられたりしました。</p>	
<p>子どもの気持ち、親の気持ち、両方の気持ちを掘り下げて意見を出すことができ参考になりました。</p>		<p>～次回はぜひ、女の子の場合をしていただきたいと思います。</p>	
<p>～今回と違うストーリーであれば、また違った話し合いに発展したのではないのでしょうか。もっと時間があればと残念です。～</p>	 <p>～時間が短いのが残念でした。とても勉強になりました。自分の考え方の確認や、同じ意見をもった方々に出会えると、安心したり自信をもったりできると思います。時々行われるとうよいと思います。</p>		

第2回「子育て支援セミナー」資料

1 第2回「子育て支援セミナー」指導案

第2回「子育て支援セミナー」指導案

H17.6.28

高崎市立新町第二小学校
高橋 美保

テーマ：親子グループ共同製作～どこが大切？子どもが楽しむお弁当作り～

第 部 13:30～

1. 始めの言葉

「今日は、たくさんの保護者の皆さんにお集まりいただき、有り難うございます。今日は 部制になっています。部は、「子育て支援セミナー」、部は、「食育カルタ大会」です。さて、部の「子育て支援セミナー」の今日のテーマは、「親子グループ共同制作」です。サブテーマは、「どこが大切？子どもが楽しむお弁当作り」です。

2. 保護者自己紹介

「1分間で、できるだけ多くの保護者と握手で自己紹介をしてください。高橋と狩野でやってみますので見ていてください。」

実 演

「今ご覧になっていただいてお分かりかと思いますが、ポイントは目です。目と目を合わせて挨拶をしてください。では、スタート。」

「終わりです。何人の方と握手できましたか？」

3. 準備

- ・1組の保護者：体育館の放送室から机を10個出す。
- ・2組の保護者：テーブルを、集いの部屋から10個出す。(校庭から入れる)
児童：丸いすを、(理科室からオレンジのいす45個・家庭科室から黄色のいす47個・図工室からいす14個)体育館の壁側左右におく。
*時間は、10分間。後片付けは逆でお願いします。

体育館責任者：高橋・保護者Aさん(4-1保護者とテーブルセット)

集いの部屋責任者：狩野先生・保護者Bさん(4-2保護者20人を集いの部屋へ)

4. グループ分け

「グループになるので、お手元のプリントを見て、机の位置に集まってください。」

移動

「グループごとに子どもの長所を言って自己紹介をしてください。高橋と狩野でやってみます。」

狩野「こんにちは。私は、狩野 子の母です。子は、ご飯をいっぱい食べて元気に毎日学校へ行くとてもいい子なのです。今日はよろしくお願いします。」

高橋「こんにちは。私は、高橋 男の母です。男は、お笑いタレントのまねをして家族を楽しませることができるとてもいい子なのです。今日はよろしくお願いします。」

「では、自己紹介をお願いします。」

5. 粘土着色作業

- (1) 「では、作業に必要なものをステージまで取りに来てください。なお、お手拭雑巾は、班の子ども的人数分おもちください。
- (2) 【粘土(グループの子ども的人数×2)・絵の具・はさみ・セロハンテープ・粘土べら(袋に入っています)・空き箱・木の板(1枚)・粘土板・下敷き・ゴミ袋(スーパーの袋・ゴミ袋大・・・下に敷いてもよい)】
いろいろなものが入っていますが、ゴミ袋は、汚れ防止のための袋です。テーブルの上に敷いてください。下敷きは、お母さん方の粘土板の代わりです。あと、わからないものは、狩野と高橋が回っていきますので聞いてください。
- (3) 作業に入ります。子どもたちがお弁当作りにすぐに入れるように、お母さん方で相談して粘土に“お弁当に使いそうな色の絵の具”を混ぜ込んでください。ただし、粘土は、一つだけ色を入れずにとっておいてください。お弁当箱の枠を作るためです。お母さん方は、お弁当箱とご飯を作ります。
- (4) 作業が終わったら、机を体育館の壁側に移動してください。そして、机のあった位置で子どもたちを待ってください。1:55に子どもたちは来ます。」

第 部 13:55~

1. 子ども入場

「お母さんが待っていますので、グループの場所に移動してください。」

~移動~

「これから学年集会を始めます。今日は、みんなで楽しくお弁当を作ります。子どもたちもお母さん方も、よく話し合って、おいしいお弁当を作ってください。」

2. 自己紹介

- ・保護者出席児童：親子で手をつなぎ、お母さんの紹介を子どもがします。順番は、じゃんけんて勝った人からです。お母さんが来ていない人は、先生が行きますので、そのグループはお母さんがいる人から始めてください。
- ・保護者欠席児童：担任と組み、担任の紹介を子どもがする。

3. お弁当作り

(説明)

「子どもたちは、丸くなって体育座りをします。その周りをお母さん方が取り囲みます。」

「これからグループの子どもたちみんなで遊びに行くために、お弁当を作ります。子どもたちは、おかずを作ります。お母さん方は、ご飯とお弁当箱、時間があればデザートを作ります。そこで、子どもたちは次の2つのことを10分間くらいで話し合ってください。

どんなお弁当にしたいか。たとえば、暑いから『スタミナ弁当』とか。そのおかずは何にするのか。

お弁当箱は、どんな形がよいのか。

「お母さん方は子どもの近くに寄っていて、よく子どもたちの話を聞いていてください。しかし、口出しはしないでください。そして、子どもへの質問は、3つまでいいです。では、子どもたちは丸くなって話し合いを始めてください。」

~話し合い終了を確認してから~

「これからお弁当作りに入ります。この後、先にお母さん方が、テーブルを運んできてください。子どもたちはテーブルがきたら、自分と親の分のいす2個を運んできてください。座席が決まっていますので説明します。子どもたちとお母さん方と、別れて座ってください。そして、お弁当作りに入ります。最初、お母さん方はお弁当箱を作ってください。厚紙はお弁当箱の底に敷くものです。」

自由に切ってください。棒は、粘土で作ってください。お母さん方が作ったお弁当箱を、木の板に載せて机の真ん中においてください。全部出来上がったら、お弁当を詰めてください。では、テーブルといすを準備してお弁当作りに入ってください。時間は30分間です。」

4. お弁当の説明

「最初にお渡しした席のプリントの下を見てください。グループの順番が書いてあります(下記*表1参照)。最初に、1グループめが作ったお弁当の説明を5分間でします。後の10グループの人は、どこのグループの説明をいくつ聞いてもいいです。自由に見に行ってください。説明の1グループめは、人が集まったら、どんどん説明を始めてください。15グループあるので、3回それを繰り返します。お弁当の説明には、次の3つのことを入れてください。

お弁当の名前

工夫したところ

おかずの種類

打ち合わせの時間を3分間取ります。3つを確認してください。また、いすを机の下に入れてから移動してください。

*表1

説明1グループめ	1組 - 1班・1 - 2・1 - 3・2 - 1・2 - 2
2グループめ	1 - 4・1 - 5・2 - 3・2 - 4・2 - 5
3グループめ	1 - 6・1 - 7・2 - 6・2 - 7・なかよし

5. 話し合い活動

- (1)「お母さん方に聞きます。今日の活動を通して、他のお母さん方と話してどうでしたか。」
 - ・グループで話し合って、意見を出し合い、代表者に発表してもらう。
- (2)「子どもたちに聞きます。お弁当を、お母さんたちとみんなで作ってどうでしたか。」
 - ・グループで話し合って、意見を出し合い、代表者に発表してもらう。
- (3)「お母さん方に聞きます。こんなに子どもたちが楽しめたのはどうしてでしょう。」
 - ・グループで話し合って、意見を出し合い、代表者に発表してもらう。

6. まとめ

「子どもたちがみんなで楽しく活動するためには、環境が大事です。今日の活動は、お母さん方が仲良く協力することで、子どもたちが楽しくお弁当作りができたのではないのでしょうか。これは、ご家庭の中でも当てはまるような気がします。これで第 部、親子グループ共同製作～どこが大切?子どもが楽しむお弁当作り～を終わりにします。」

2 「子育て支援セミナー」便り

保護者様









4年生学年便り～号外～

H17.7.5

「子育て支援セミナー」第2弾!を開催しました



平成17年6月28日に、「子育て支援セミナー」を開催しました。今回は、親子参加型のセミナーでした。保護者同士の自己紹介から始まり、テーブルの準備、粘土の色入れ作業、そして、子どもたちの話し合い、保護者同士の相談、お弁当作り、発表会、最後にグループごとに話し合い、発表をしてもらいました。そこで、いろいろな意見が出され、保護者同士、子ども同士の情報交換ができました。以下、セミナーに参加して下さった保護者の皆さんの感想(一部抜粋)を紹介합니다。

<p>①ふだん、あまり話すことのないお母さん方と、一足踏み込んで共同作業ができたことで、親近感を覚えながら相手に共感してゆくといい経験を得ることができたと思います。</p> 	<p>②子どもたちが積極的に参加し、話を膨らませていく姿がよかったです。友達の意見を聞きつつ、盛り上げていく過程に成長が見られ、驚くと共にうれしかったです。親もそれに応えるべく、一緒に意見を出し合うことができました。久しぶりの粘土で楽しかったです。</p> 
<p>▶子どもたちと何かを一緒に完成させるということは、あまりないことで、新鮮な気分で楽しく過ごせてよかったです。今回のグループは、親同士が保育園からの顔見知りでした。しかし、入学してから4年たちましたが、まだ、同級生の顔も覚えられず、ましてやお母さん方もわからないため、このような機会があるとよいと思いました。子どもたちと一緒に過ごす時間をもう少しもちたいと思いました。</p> 	<p>◆久しぶりに、子どもと一緒に粘土に触れ、楽しい時間がもてました。親が作った箱の中に、子どもたちが作った素敵なおかずが並べられ、一つの作品になったのを見ながら、先生のコメントをお聞きし、「私もしっかりした(箱・器)にならなくては!!」と改めて思いました。</p> 
<p>◆親子で一緒に何かを作るといことは、やっぱり必要なかと思えました。成長するとなかなかその機会がなくなるので、こういったものがあるといいきっかけになると思います。また、グループでというのが、今までになく楽しかったです。</p> 	<p>▶親子で粘土製作なんて・・・と思っていたけど、お互い夢中になり、時間が経ってしまい、楽しかったです。親同士、なかなか話す機会がなく、今回こういう場でいろいろ話もできました。</p> 
<p>❏子どもと接する時間が少ない中、貴重な時間を作ることができました。みんなで協力して何かをするということの大切さを子どもが学ぶことができたのでは・・・と思います。</p> 	<p>◆子どもが大きくなってから、親子で粘土作りなんて家庭の中ではしないことなので、久しぶりにとっても楽しめました。テーマが、「お弁当」ということもあって、とてもやりやすかったし、お母さん方ともコミュニケーションがよく取れてよかったです。とても楽しい体験をさせていただきました。</p> 

第3回「子育て支援セミナー」資料

1 第3回「子育て支援セミナー」指導案

第3回「子育て支援セミナー」指導案

H17.7.27
高崎市立新町第二小学校
高橋 美保

テーマ：「友達関係をどのように見守るか」～新町第二小 親から子へのかかわり方を示す第 条～
第1部 ウォーミングアップ

1. 保護者出席者を2グループに分ける。
2. アイスブレイキング

グループごとに自己紹介と親（自分）の自慢話をする。

3. 子どもの友達関係で、お母さんがかかわったことや、かかわらなくとも承知していたことで、思い出に残っていることを保護者から出してもらおう。（挙手）

【例】自分のうちの子が友達にいじめられていたのを知っていたので、その子に会ったときに、直接もういじめないように叱っておいた。

第2部

準備：マグネット・小黒板・チョーク・画用紙・鉛筆

1. 課題について考える。

課題「お子さん自身が友達とかかわる中で、親として大切にしたいことや、こうしたいと思っていること」を、付箋紙一枚に一つずつ、一人5個くらい書いてください。

（例）子ども同士の約束はできるだけ大切にす
けんかも勉強と思って見守る。

2. 各自の意見を発表し、グループ化する。（ブレインストーミング）

グループごとに、一人一枚ずつ順番に発表し、付箋紙を画用紙に貼りながら、書いた内容をグループ化していく。そのときに、同じような内容があったら、その近くに付箋紙を貼っておく。

（例）友達との決め事・友達とのかかわり・けんかも勉強・子どもの友達を知る・友達の親を知る・親子、友達との約束

3. グループのまとめ

グループのまとめについて、簡単な題（名前）をつけてもらう。そのときに、一度グループ化したものを、見直してもよいし、一つだけのものがあったてもよい。

4. グループごとに情報交換する。

グループごとに、付箋紙の内容と、グループ化した題を発表する。

5. まとめ

二小の保護者が友達とかかわるときの秘訣はまさにここにあります。親がすべき大事なこと、今、お子さんが友達とかかわる上で何を大事にしているか、または、何を大事にしてこなかったのか。もしかしたら、大事にしてこなかったことで、子どもが困っていてSOSを発信しているかもしれません。今日のセミナーの皆さんの意見を参考にして、「親から子へのかかわり方を示す第17条」の中で、取り入れられる所は取り入れてみてください。

2 「子育て支援セミナー」便り

保護者様

4年生学年便り～号外～

H17.8.19



「子育て支援セミナー」第3弾！を開催しました

平成17年7月27日に、「子育て支援セミナー」を開催しました。今回は、グループごとの話し合い形式のセミナーでした。まず、保護者同士の自己紹介（自分の自慢話）から始まり、お茶を飲みながら涼しい部屋で「友達関係をどのように見守るか」について、ご家庭の方針を出し合い、グループ化し、最後に「親から子へのかかわり方を示す第17条」を確認しました。以下、セミナーに参加してくださ

った保護者の皆さんの感想（一部抜粋）を紹介します。また、第4回「子育て支援セミナー」を、9月14日（水）公開授業日の15：00～16：30で実施します。たくさんの皆さんの出席をお待ちしています。みんなで一緒に学びましょう。

【新町二小 親から子へのかかわり方を示す第17条】

- | | | |
|-------------|-----------|------------------------|
| 1条 ルール（を守る） | 2条 思いやり | 3条 言葉（うそを言わない・悪口を言わない） |
| 4条 自立 | 5条 友達作り | 6条 見守る |
| 7条 判断（する力） | 8条 礼儀正しく | 9条 約束を守る |
| 10条 時間を守る | 11条 自分らしさ | 12条 客観性 |
| 13条 子どもの力 | 14条 仕返し禁止 | 15条 子どもらしさ |
| 16条 報告 | 17条 相談 | |

 <p>今回、たくさんの方の意見を聞き、今まで気づかなかった事を参考にすることができました。また、日頃自分が子どもに言っていることや子どもに「こうしてほしい」「こうなってほしい」と思っていることが、他の方々と同意見だったこともあり、コミュニケーションを図ることができました。</p>	 <p>楽しい雰囲気の中で参加させていただき、いろいろな意見が出て勉強になりました。これからの生活において、他の人々とかかわることは、絶対はずせません。今日、ほかのお母さんたちが出してくれた意見も早速夏休みの間に取り入れ、子どもがよりよい友達作りができればと思います。</p>
<p>子どもを育てるということは、「自分育てだなあ。」とつくづく思いました。自分自身を振り返り、日頃の行動を反省してしまいました。</p> 	 <p>多い言葉がけはあまりよくないと思っていましたが、言われないと気づかないこともありますね。例えば、「今、自分が楽しいか考えてみる。」ということなど思いつきもしませんでした。勉強になりました。</p>
 <p>目からウロコ・・・という言葉がぴったりです。自分自身を見つめなおすことができました。違った角度から子どもに切り込んでいこうと思いました。</p>	 <p>すごく有意義な時間を過ごすことができました。今までの子育ての中で少しずつ固まっていた頭でしたが、今回いろいろな意見を聞くことができ、自分が忘れてたことや思いつかなかったことに気づかせてもらいました。私達が経験の中であたり前になっていることも子どもは学び、経験していくのを親として見守っていかなければと思います。言葉がけの大切さを改めて感じます。</p>
<p>前回同様、とても勉強になりました。子どもに対して大人の考えを押し付けている自分がいます。毎回、自分の視野の狭さを痛感させられます。日々の雑事に追われてせっかく、学んだことを忘れてしまうのが残念で何とか心に刻み込めないものかと悩みます。子どもは日々、成長しているのに親の自分は進歩が遅く、このままではいけない・・・とあせりを感じます。</p> 	<p>各家庭の貴重な意見を聞くことができ、とても参考になりました。うちは男の子で私とは異性なので、私が通ってきた道ではなく、最近理解に苦しむところも出始めてきました。だんだんと難しい年頃になってくると思いますが、親の私も負けずに自分自身をもって、一緒に成長していきたいと思っています。今日は大変勉強になりました。</p> 
 <p>他のお母さん方とあまり交流したことがなかったので、いろいろな人の意見が聞けて大変勉強になりました。男の子の親と女の子の親の差も感じました。</p>	 <p>「子は親の鏡」ということを改めて実感したような気がします。自分の子育ての中で、欠けている部分に気づく事ができたのが何よりの収穫だったと思います。普段は友達と育児相談をしたりはするのですが、なかなか「井の中の蛙」から抜け切れずにいました。夏休みの中で、毎日子どもを怒鳴ってばかりの日々でしたが、気をつけていきたいと思っています。</p>



皆さんが子どもたちのことをとても考えているので、私自身反省することがたくさんありました。もっと親子で勉強していきたいです。いっぱいお友達を作って楽しい思い出を残してほしいです。また、自分の意見をはっきり言えること、でも、困っているお友達には声をかけ、助けられるような人間になってほしいと思います。

改めて他のお母さん方の意見を伺うことができて、大変参考になりました。自分では気づかなかった考え方に、はっとしました。私自身もいろいろな人の考えを聞き、ほかのお母さん方と付き合って柔軟に育児をしていくべきだなと思いました。大変有意義な時間をありがとうございました。また、このような機会を設けていただけたらと思います。



第4回「子育て支援セミナー」資料

1 第4回「子育て支援セミナー」指導案

H17.9.14

高崎市立新町第二小学校

高橋 美保

第4回「子育て支援セミナー」指導案

テーマ：「子ども・家族との関係について考えよう！」

日時 平成17年9月14日(木) 15:00～16:30
場所 図書室(ほっとルーム)

目的 (1) 子どもとの関係を考える。
(2) 母親以外のほかの家族(父・兄・姉・弟・妹・祖父・祖母など)との関係を考える。

展開

準備：A4画用紙・2B鉛筆・消しゴム・BGM・赤鉛筆・たんけんバッグ

1. 導入

アイスブレイキング

- (1) 自己紹介
- (2) 人間ボーリング

2. 展開(BGMを流す)

今日のご苦労様です。「子育て支援セミナー」も、いよいよ大詰めとなりました。今まで、「子どもの友達とのかかわり方」や「親子で協力してお弁当作り」「親から子へのかかわり方」を勉強してきました。さて、今日は、お母さんと家族との関係について、考えてみたいと思います。

(1) さて、あなたの家族は何人でしょうか？これから画用紙の四角の中に、「自家像」を描いてもらおうと思います。ペットも家族とお考えなら入れてください。一番発言力、決定権の大きな人を一番大きな、それ以外の人は、それよりも小さなで描いてください。画用紙はどのように使ってもかまいません。

*例示：黒板に を描いて示す

(2) の外に、自分・夫・長女・次女・長男・・・を書いてください。

(3) に(鼻)をつけてください。およそ全体的に向いている方向に鼻を描きます。

*例示：黒板に を描いて示す

- (4) それぞれの家族の関係を考えて、次の線で表してください。
 強い結びつき = 結びつきがある しっくりこない . . .
- (5) ここまでで気づいたことを、メモ1に書いてください。 . . . 保護者発表2～3人
- (6) お子さんの中で、一人、「今日はこの子について考えてみよう」というお子さんを画用紙の 下 に二重線で印をつけてください。今日考えてみたいお子さんから、自分やその他の家族との距離、その結びつき、その向きから、何か気づいたことをメモ2に書いてください。
- (7) 今日考えてみたいお子さんが、どの辺にきたら、いい位置や大きさ、結びつきになるか考えて、赤鉛筆で新しく を描いてください。
- (8) その子が、赤で新しく を描いたところに行くために、お母さん自身はどんなふう to その子にしたらよいでしょうか。(接し方や気持ち、声かけ、心構えなど)メモ3に書いてください。 . . . 保護者発表2～3人
- (9) その子が赤で新しく を描いたところに行くためには、お母さんは、他の家族とどのように接したり、声かけをしたり、心構えをもっていたらよいでしょうか。メモ4に書いてください。 . . . 保護者発表2～3人
3. まとめ
 武藤先生、お願いします。(武藤先生：群馬県総合教育センター指導主事)
4. 感想を書いてください。
5. 終わり

2 ワークシート

第4回「子育て支援セミナー」メモ・感想用紙 H17.9.14

名前 _____

1. メモシート

メモ1
メモ2
メモ3
メモ4

2. 今回のセミナーに参加した感想をお聞かせください。

3 「子育て支援セミナー」便り

保護者様



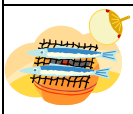
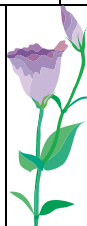
4年生学年便り～号外～




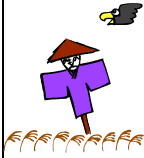
H17.9.27



「子育て支援セミナー」第4弾！を開催しました

平成17年9月14日に、「子育て支援セミナー」を開催しました。今回は、「子ども・家族との関係について考える」セミナーでした。まず、保護者同士の自己紹介（自分の自慢話）から始まり、「人間ポーリング」という簡単なゲームをしました。その後、本題である「家族」の「自家像」を描いていただきました。そして、気になるお子さんの位置について改めて考え、修正し、その子どもへの働きかけ、家族への働きかけを考えました。今回のセミナーで、普段はあまりじっくりと考えたことのない自分の家族関係について、改めて考え、見直すことにより、よりよい家族関係が作れるよう、また、皆さんご家庭の「家族の物語」が作れるよう、徐々に気になる位置関係は軌道修正できるとよいと思います。

	<p>武藤先生のお話の中で、「心を躍らせられるか」とありましたが、現状では、一緒にいられる時間がないため、ついつい、物を買ってやる状態で・・・これでは心の会話もできるはずがないですね。少ない時間、限られた時間で、いかに上手に子どもと接したらよいか改めて考え、実行したいと思いました。</p>	<p>今回のテーマはとても考えさせられました。ちょうど今、家族間の力のバランス、また姉妹間の雰囲気について考えさせられるところがあり、今日はとてもいい勉強になりました。長女の居場所を少し変えるだけで家族内がよく回っていきそうな気がします。</p> 
	<p>家族がどうしたら仲良く、幸せになれるかいつも考えてきたことですが、なかなか気持ちが合わず、ギクシャクしていました。子どもも大きくなり、自分の意見ももてるようになりました。我慢しているのではなく、話し合い、自分の気持ちばかりではなく、相手の考えも受け入れ、良い方にもっていけたらと思っています。</p>	 <p>忙しい毎日で、こんなに家族のことをゆっくり、しっかり考える時間はありませんでした。子どもも、これからはだんだん親との距離をとる年齢になっていくと思います。今が親として一番幸せな時期かなと思っています。これからもよりよい家族関係が保っていけるようセミナーの経験を生かしていきたいと考えています。</p>

	<p>今までのセミナー以上に、今回は自分の子どもとのかかわりを深く考えさせられました。今は子どもたちが順調に育ってくれていますが、これから成長する過程では、色々な問題も生じてくると思います。そのときには、これまでのセミナーが解決のヒントを与えてくれるのでは・・・と思います。地に足をつけて、時々は反省し、悩みながらもしっかり子育てをして、自分も成長できたらいいなと思っています。</p>
	<p>もう少し、子ども、夫の立場・気持ちになって毎日を過ごしてみようと思います。武藤先生の「同じ時間を過ごすだけではだめなんだ。」という言葉がとても印象的でした。もう少し、心を使った会話をしようと思います。</p> <p>日頃の家族関係が明確になった気がします。子どもたちには、今のまま、兄弟が対等で、仲良く育ってほしいと思います。夫は仕事が多忙で、なかなか子どもと過ごす時間が取れないので、子どもとの距離は遠いのですが、結びつきは強いので、この関係もこのまま続けてほしいです。</p>
	<p>自家像をかいてみると、家族の結びつきや位置関係があからさまにわかり、「現状維持」でよいと思いつつも本当にこのままでいいのだろうか、と考えさせられました。主人にも自家像を描いてもらい私の自家像と比べて家族については是非話し合いをしたいです。</p> <p>人それぞれ自家像は違いがあるんだなと思った。自分だけで色々と考えず、家族全員で考えて、よい家族になれるように努力していかなければならないと思った。下の子どもとのかかわりの方が多いため、長男とのコミュニケーションもすごく必要だと思った。</p>
	<p>「家族の物語」「心の豊かさ」とてもいい響きです。改めて考えた家族のことですが、今まで以上にいつも自家像のことを考え、みんながいっつも気持ちのよい場所にいられるよう見つめていきたいです。武藤先生のお話にも感激してしまいました。ずっしりと重たい家族の物語ができたらいいいと思いました。</p> <p>今まで、家族の位置関係を考えることはなく、毎日を時の流れるままに過ごしてきました。今回、自家像を描いたことにより、家族として維持していく部分と改善してみたいところがよくわかり、とても参考になりました。家族は、しっかりとみなで結びついていけば、きっと幸せになれるのだと思います。</p>

第5回「子育て支援セミナー」資料

1 第5回「子育て支援セミナー」指導案

第5回「子育て支援セミナー」指導案

H17.11.24

高崎市立新町第二小学校
高橋 美保

テーマ：「子どもの生の声を聞こう！」

日時 平成17年11月24日(木) 15:15～16:30
場所 図書室(ほっとルーム)

目的 (1) 子どもの視点・立場に立って、子どもの気持ちを考える。
(2) 子どもの気持ちに寄り添って、親の気持ちを伝える。

展開

準備：保護者用ワークシート、鉛筆、消しゴム

1. 導入

アイスブレイキング

- (1) 自己紹介
- (2) ゲーム：バースデーライン

2. 展開 (BGMを流す)

(1) あいさつ

今日のご苦労様です。「子育て支援セミナー」も、ついに最終章となりました。今まで、「子どもの友達とのかかわり方」や「親子で協力してお弁当の製作」「親から子へのかかわり方」「親子関係」を勉強してきました。さて、今日は、

子どもの視点・立場に立って、子どもの気持ちを考える。

子どもの気持ちにより添って、親の気持ちを伝える。

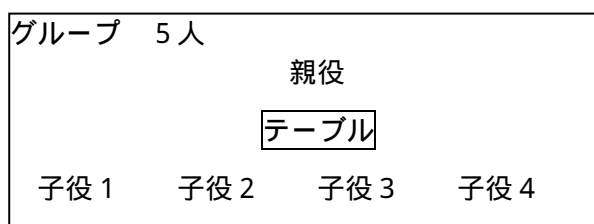
についてみんなで学習していきます。

(2) EXERCISE

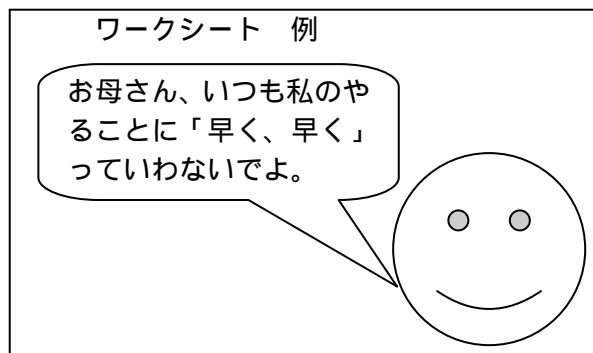
課題：皆さんの子どもが、親に注文を出すとしたら、どんなことを注文すると思いますか？子どもの言葉でワークシートに注文を一つ書いてください。

<ワークシート：「親への注文書」>

<座 席>



* は、「注文書」を回す順番



EXERCISE 1

はじめに、親役の書いた注文書を、子役1に渡す。

子役1は、注文書の内容『お母さん、いつも私のやることに「早く、早く」っていわないでよ。』を、親役に向かって、子どもになったつもりで言う。

注文を言われた親役は、どうして「早く、早く」というか理由を子どもに説明する。

例えば、「お母さんはね、あなたがゆっくりゆっくりやっているから、間に合わないんじゃないかといつも心配なんだよ。」

説明された子役1は、自分の気持ちを母親にぶつける。

例えば、「ゆっくりなんかやってない。これでも頑張っているんだよ。」

* ここで親役は、子どもの気持ちを心の中で確認する。

次に、注文書を子役2に渡す。子役2は、子役1と同様に、親役の注文書の内容を親役に向かって子どもになったつもりで言う。注文を言われた親役は、理由を子どもに説明する。説明された子役2は、自分の気持ちを母親にぶつける。

以下、子役3、子役4、と繰り返す。子役4まで終わったら、注文書を親に返す。

EXERCISE 2

席替え (時計と反対回りで席替えをする。)

子役4が、親役となり、EXERCISE 1と同じことを繰り返す。(全員が、親役を経験するまで繰り返す。)

(3) 感想・発表

- ・ EXERCISE を行って、どんな風に感じましたか？ワークシートに書いてください。
- ・ 発表 3～4人

(4) 教師のまとめ

子どもは、日頃、親に何気なく言われていることに対して、いろいろなことを感じているかもしれません。どんなふうに子どもに言葉をかけてあげるのが大事なことなのですね。

(5) ワーク

- ・ 今までは予想でやってきましたが、実際に子どもさんが「親への注文書」を書いています。お渡ししますので、読んでください。また、子どもがこのような考えていることは事実なので、受け止めてあげてください。
- ・ 次に、注文を出した子どもさんに、返事を書いてください。ただし、今日の勉強をふまえて、どんなふうに返事を書くか、子どもの立場に立って返してあげてください。

3. まとめ

今日の感想を書いてください。

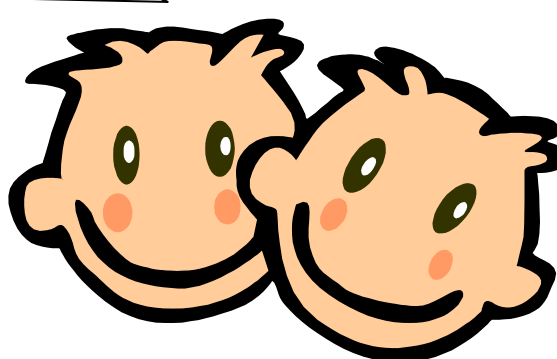
2 ワークシート

(保護者用)

ワークシート

名前 _____

お さん、



1. メモ

(1) エクセサイズを行って、どんな風に感じましたか？(例えば、誰の言葉がどういう風に心に残ったか、など)

.

(2) その他、考えたこと、思ったことを書いてください。

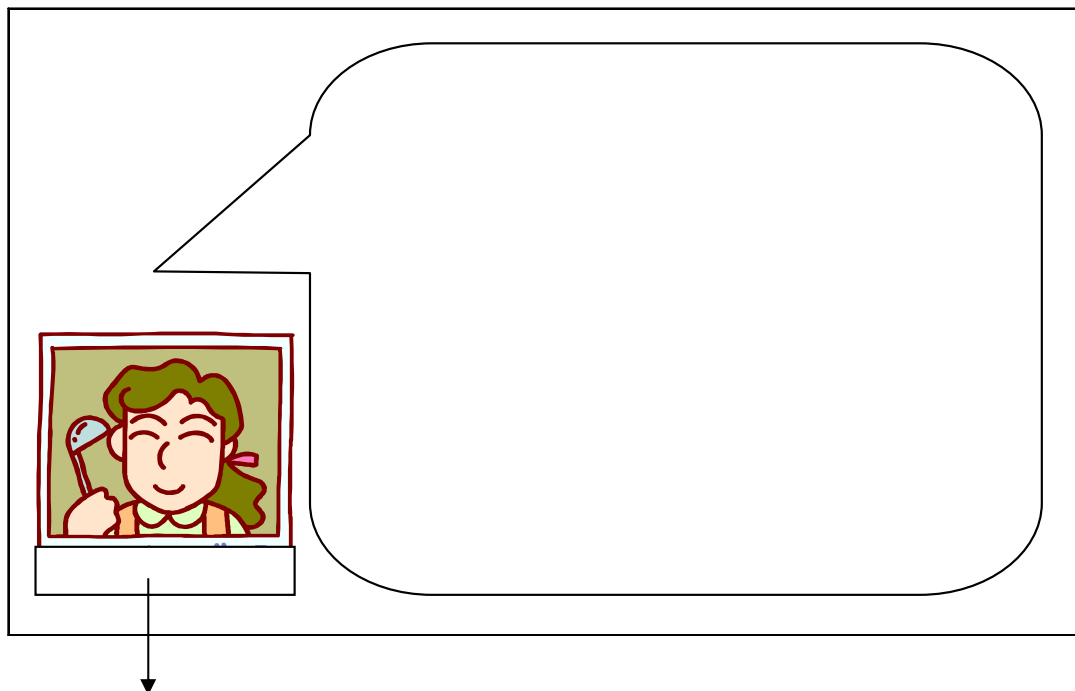
.

(児童用:「親への注文書」カード)

お さん、

ここには
子どもが自分の顔を描く

(保護者用:「子どもへの返事」カード)



(この四角の中には、お母さんの名前を書いてもらう。)

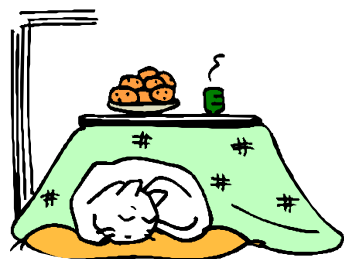
3「子育て支援セミナー」便り

保護者様

4年生学年便り～号外～

H17.12.1

「子育て支援セミナー」第5弾！を開催しました













平成17年11月24日に、「子育て支援セミナー」を開催しました。今回のテーマは、「子どもの生の声を聞こう！」でした。お忙しい中、たくさんの保護者の皆さんに参加していただきありがとうございました。まず、保護者の皆さんは、バースデーラインというゲームをしました。生年月日順に1月1日から12月31日まで一列に並ぶというゲームです。それぞれの誕生日を身振り手振りでコミュニケーションをとりながら、探し合い、並びました。ただし、声を出して話をしてはいけません。子どもたちが、学レクで取り組んだ時は、52名で4分かかりました。しかし、さすがお母さん方。32名が1分で並べました。さて、今回のセミナーのめあては、

- (1) 子どもの視点・立場に立って、子どもの気持ちを考える。
- (2) 子どもの気持ちに寄り添って、親の気持ちを伝える。

でした。「親への注文書」は、いかがでしたか？子どもからの注文が、予想通りという方もいらっしゃったでしょうし、全然違った方もいらっしゃったと思います。しかし、子どもはいろいろな感じ、考えています。子どもの視点に立ち、どういう言い方で子どもに親の気持ちを伝えるか、難しいところですが、互いに目と目を合わせて向き合って、じっくりと話をしてください。「子育てに待ったなし」です。また、子どもの行動をじっと見守ってください。親のペースに無理に合わせようとしないで、子どものペースを尊重してください。もう、1ヶ月を待たずして冬休みです。あわただしい中ではありますが、どうか、気持ちにゆとりをもって子どもと接してください。担任は、毎日子どもたちが、元気に笑顔で登校してくるのを待っています。以下、参加していただきました保護者の皆さんの感想をのせておきます。

*お母さんからのメッセージは、30日に、子どもたちに担任より話をして届けました。みんな首を長くして返事を待っていました。ご協力ありがとうございました。

 <p>子どもの気持ちを考え直すことができました。兄弟でも、上の子と一緒に親も成長してしまつて、下の子の気持ちやその成長段階を考えていなかったことに気付きました。もう一度、同じことの繰り返しになりますが、兄弟平等に付き合っただけと思ひました。</p>	 <p>子どもからの手紙をもらう機会などなく、正直、心にズシーンとのしかかるような気がしました。兄弟げんか・・・理由も聞かず長男を怒ることが多い・・・いや、殆どがそうかも！子どもの心には、ものすごく負担になっていたことを思うと心が痛みます。～このセミナーで親子関係を見直してみようという気持ちになりました。これからちょっとずつ自分も成長していきたいと思ひました。</p>
<p>親には親なりの期待があり、かといって理不尽な事も言ってみたりという姿を振り返ることができました。今日のセミナーにふれても、やはり、前回の“一緒にいるだけではだめなんです。”という言葉が浮かびます。もっと、行動、会話をして心を通じあわせるよう、努力しなければと思ひます。子ども自身がそう思ってくれるのを第一に考えなければと思ひました。</p> 	<p>～親の悩みや気持ちなどは、殆どみんな一緒でしたが子どもから見ると様々な想いがあるのだと思ひました。子どもからもらった手紙には、予想外のことがあり、びっくりしました。どうせ、「怒らないでよ。」かと思ひていましたが、全然違うことを思っていたようでした。このセミナーに出て、もう少し下の子にも親らしくというか今日のことを下の子にも生かしていけたらいいと思ひます。～</p> 
<p>エクササイズでの子どもからの言葉は、日頃からの自分の反省点でもあるのかなと思ひました。子どもの生活ペース、大人の生活ペースの違いも感じ、子どものペースに合わせることも時には必要なのではないかと感じました。娘からのカードには、予想外の言葉が書いてありましたが、確かに、「よく言っているかも・・・」とはっとさせられました。</p> 	<p>子どものお願ひは予想通りでした。わかっていながら子どもの気持ちを受け止めて行動できていないことに反省しました。親の立場上の都合で子どもに物事を言ったり、しかったり、子どもの気持ちと向き合うことが大切なんだなと思ひます。姉弟平等に接しているつもりがそうではなく、反省しました。</p> <p>子どもの立場に立って考えてみると、「その通り！」なんて意見はたくさんありましたが、つい心配で言ってしまったたり、親の都合で言ってしまったたりが多く感じられました。子どもの気持ちも踏まえ、少し言い方を考えてみようかなと思ひました。</p> 
 <p>子どもが私に思っていることと、私が子どもに思っていたことが同じだったのでびっくりしました。やっぱりなるべく言わないようにしても、つい、何回も繰り返してしまっていたことに少し反省しました。もう少し子どもの立場に立って、考えたいと思ひました。</p>	
<p>～普段は何気なく話している日常会話の中での、親と子どものやり取りが、とても重要なことだとわかりました。親からの言葉が、受け方によって、子どもにとっては強く感じられてしまうこともあると思ひますので、これからは、子どもの立場をじゅうぶんに考えながら、話をしていきたいと思ひます。他のお母さん方の意見を聞けて、とても有意義な時間になりました。</p> 	<p>～子どものことは毎日見て、色々注文をつけたりしてはいますが、自分自身に対しては全然反省していなかった・・・と気付きました。自分の何気ない言葉・態度・・・子どもはどう感じているのだろうかと考えさせられました。日々、成長している子どもにおいていかれないように、自分も母として成長していきたいです。</p> 
 <p>朝は「早く起きなさい」から始まって夜は「早く寝なさい」の私の発言。時間配分は自分で決めていること、言われるといらいらすることがわかりました。「まさにそのとおり！」と思ひました。4年生になったのに、1年生のころと同じ叱り方をしている自分に気がつき、今後は少し見守る努力をしていきたいと思ひます。～</p>	